市政懇談会に思う…

昨年五月から始まった市政懇談会は三十七会場で開かれ、約二千人の市民が参加しました。そこで、このページでは市政懇談会に参加した感想を五人の方から寄せていただき、先に行った一万人アンケートの中の市政懇談会に対する市民の声とあわせて紹介します。

主人公意識の高まりが大切

小山芙美子(文京町)

主人公の現況は「専業主婦と老人だけのまちづくり」であり、それも、上からの押しつけでいやいや、やっている人が多いのではないでしょうか。若者なども含めた、市民全体の主人公意識が盛りあがらない限り、理想は、空まわりにおわると思います。

市側が、積極的にこういう懇談会をもったということはとてもよいことであり、今回を第一歩として積み重ねていくうちに、主人公意識は高まっていくことと思います。

また、意識を育てていくには、やはり子供のときからの教育も大切だと思います。浜浦小学校では、海水浴シーズン前後の海岸清掃など親子でボランティア活動を行い、教育上もすばらしい成果をあげております。

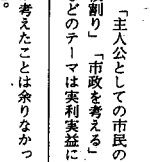
小さくとも集団の力は、金力以上に偉大なものにもなります。

一人ひとりの意識の向上が、ゴミ、公害、節約にもつながって、すがすがしい都市づくりへとひろがっていくのではないでしょうか。と発言し、激しい反論を受けたとのことです。私も一

地域住民の連帯が基盤

石川　茂(河渡丁)

市政に対する考えといえば、自分自身の経験からして、例えば、車を運転していて悪路に出会った時、市役所へ用事に行き職員の人と接した時、サークル活動をしていて施設に不便さを感じた時などに「してほしい」という位で、全体を見渡してこうあるべきだとよく言われる〝住みよい街〟も地域住民の連帯づくり〟も地域住民の連帯という基盤があり、それが市政とうまくかみ合って初めて実現できると思う。例えば、公共の場が紙クズなどで汚されるというのは個人のエチケットの問題であるが、一歩進んで、住民の協力により清掃奉仕をすることも、私達が出来ることであり、こんなことが全域に広がればよいと思う。



〝話し合いの場〟づくりを

橋本光子(天神町)

「主人公としての市民の役割り」「市政を考える」などのテーマは実利実益に直接関係がなく、多少の不便さがあっても我慢すればおさまってゆくものなので関心がうすいと思われる。

この種のものは、実践活動の積み重ねの中から、初めて市政の流れや仕組みを知り、市民の役割りを肌で認識するようなものでないでしょうか。

簡単にとらえて、自分たちの知恵や労力の提供でどんな協力ができるかと考えますと――。

①行政サービスを百倍受けとめる。例えば相談業務の活用、保健所の検診、自治会や小集団単位に交付される助成金の類はよく活用して、地域社会の生活環境を整えてゆく。住民からは利用であり、市政へは協力でもある。②福祉面においては、地域住民が暖かい愛情をもちあわせていれば、老人、幼児、障害を持った人達へ安定した生活の場があるはず。そして、ゴミだし除雪、公園管理なども自然に共通の課題として処理される。③一人ひとりの市民が我が町としての意識が育つために「話し合いの場・教育の場」をつくってゆくことも……市民の大事な役割りになるのではと思うのです。④行政側も予算や法の枠などが邪魔するでしょうが市民的な感覚で「行政セルフサービス」運動の呼びかけを推進していただきたいものと思うのです。

道路はたばこの灰皿ではありません。

子孫のために美田を残そう

斎藤はるゑ(松浜三)

我国のごみ戦争宣言は五年前になりますが、八年前に米国では、都市のごみ、特に包装容器の処理対策について、行政、業界、研究機関等の間で、真剣な討議がなされ、その席上、業界側代表が「消費者、特に家庭の主婦が、見かけの良い包装商品を求める以上、その要求に従わざるを得ない」ビニール袋は、主婦の心がけ次第で必要のない場合が多いのです。

主婦として、日常の消費生活の中に防ぎ様もなく入り込んで来る包装容器に対して、訴え処のないいらだちを覚えます。しかもこれら容器の大部分は、再生不能物質といわれ、現在行われている不燃ごみの処理は、あくまで一時抑えの方法であって、それさえも、決まりを守って出すことの困難な現状を見るにつけ、もう一歩前の段階でこのごみ戦争に勝つ道はないものかと思うのです。

そこで私は、ささやかな抵抗をしてみました。

例えば、パック食品は確かに便利で、一見清潔に見えますが、同じ金額なら計量買いの方が、品選びができてしかも実質的に得であるばかりでなく、不燃ごみの量は、従来の三分の一以下になりました。また、買い物をする度に付いて来るビニール袋は、主婦の心がけ次第で必要のない場合が多いのです。

私達は今、ごみの収集方法についてのみ多くの論を重ねていますが、やがて身近に追って来る環境の汚染や資源の調達に対して、もっと本気で取り組む時が来ていると思います。自分の家や町角からごみの姿が見えなくなれば良いという時代は過ぎました。立派な処理場が出来ても、完全なリサイクルを期待できない現在、ごみの出し方を身につける以前の問題として、ごみを少くする市民運動を起そうではありませんか。その為に業界も、公的機関も、資源の再利用を基盤にした消費生活が成り立つ為の努力を惜しまないで頂きたい。私は子供達の為に美しい大地を残したいと願うのです。

出席の依頼状を出したら

石月道夫(道上ケ丘)

昨年実施されました市政懇談会は本当に素晴しい発案で、大成功であったと思います。

「警俔(ケイガイ)」に接する」親しく市長さんのお話をお聞きすることによって「われらの市長さん」という実感が高まりました。

ただ残念に思いましたのは、「市報だより」をよく読まないためでしょうか出席者が少なかったことでございます。市としましては、このお方からは是非出席してもらいたいと思うお方には、出席の依頼状を出してはどうでございましょうか。

出席する人からは、当日質問や発言の意思がありましたなら、事前に提出してもらって整理をしておりますれば、会の進行がより能率的になると考えます。

また、直接、市政懇談会とは関係ございませんが、各地区で体育大会などを開催し、準備、運営等は全地区でやり、終了後は出場者はもちろん、見物人も全員で紙屑などを捨って焼きながら、それを中心にして輪をつくって「新潟民謡」などを楽しく歌ったり、踊って、お互いが人間関係の親密度を高めるようにしては如何かと考えます。

1万人アンケートから

一万人アンケートによる「市政懇談会」についての「自由意見」から、賛否両論の主なものを拾ってみました。

非常によかった

市政懇談会は非常によいことだ。ぜひ一年に一回はやってほしい。いままでにこんなことはなかった。市長に敬意を表する。

＊　＊　＊

従来より住民の声を聞いてくれる姿勢を感じている。

＊　＊　＊

地域別懇談会は、市長の出席により、住民との間に親近感がわき、たいへんよいことと思う。

もっと回数を増やして…

市政懇談会は、地区に年二回ほど開催して欲しい。

＊　＊　＊

小地区単位で、問題があるつど懇談会を開いたらどうか。

＊　＊　＊

公民館などを利用して町内ごとに懇談会を多く実施して欲しい。

＊　＊　＊

市長は多忙と思うので局・部長との懇談会(地域別)を開いて欲しい。

＊　＊　＊

地域別懇談会は、少なくとも年二～三回程度開き、時間も三～五時間くらいは必要。

＊　＊　＊

市政懇談会は、多数参加できるよう、小学校区ごとがよい。

＊　＊　＊

地域別市政懇談会は、地元主催が望ましい。

＊　＊　＊

地域別市政懇談会は、たまにはテーマを決めて話し合う会があってもよいと思う。

＊　＊　＊

声を聞いたら、確実に実行を。

＊　＊　＊

懇談会を主催するときは、もっと前から住民に知らせて欲しい。少なくとも二週間くらい前に。

＊　＊　＊

車で回って欲しい。石山地区では、わからない人が多かった。

＊　＊　＊

市長との懇談会はよい事ではあるが、昼間働く労働者にとって、どれだけの人が時間的にゆとりがあるだろう。女性にとってはなおさら。

＊　＊　＊

懇談会における発言者は特定の人が多い。一人でも多くの意見を。

方法に工夫を

懇談会は、建設的な意見が少なく、形式的な意見が多い。具体的な意見と討論を希望する。

＊　＊　＊

市政懇談会の会場が遠く、夜間催されると行きたくない。